

プ^ラタス島視察報告

三

0641

仁覽



軍務局

軍令



各班



四班先

臺灣第九七號

明治三十四年三月

台灣總督府海軍參謀長玉山哲三

海軍省副官村上格一殿

プラタス島ノ宝真

格系

右ハ同島秘魯報告ヨリ得タル寶真ノ有

ニシテ其報告ヨリ得タル寶真ノ有

右ハ依頼ス

進マシテ

右ハ隆石家

右ハ隆石家

右ハ隆石家

龍角漸々増大ハ懷柔多ク
官部長ハ遠近ノ事ハ諒ナリ
知事長久矣

(87)

0643



0644

移住民宿舎

0645

ハ

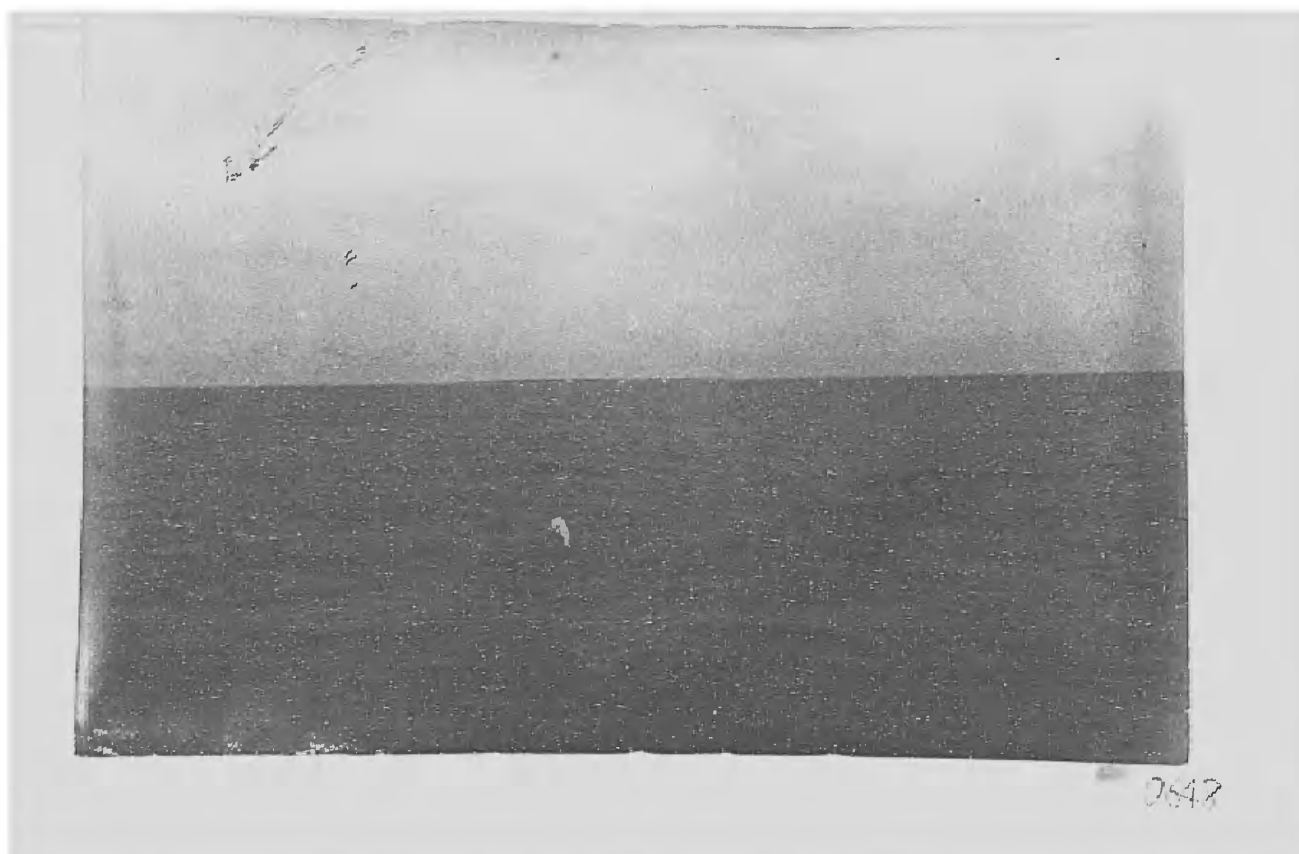


0646

スライム島柳橋沖に船が動く

一八四七

0647



フランス島
西北方四哩
多馬橋

0649



0650

島田長太木(リドノ木) 四ノ木

0651



0652

鹹湖内面ヲ沖合リ部ト

0653

12



0654

移住地ヲ柳橋ニ到ル輕便

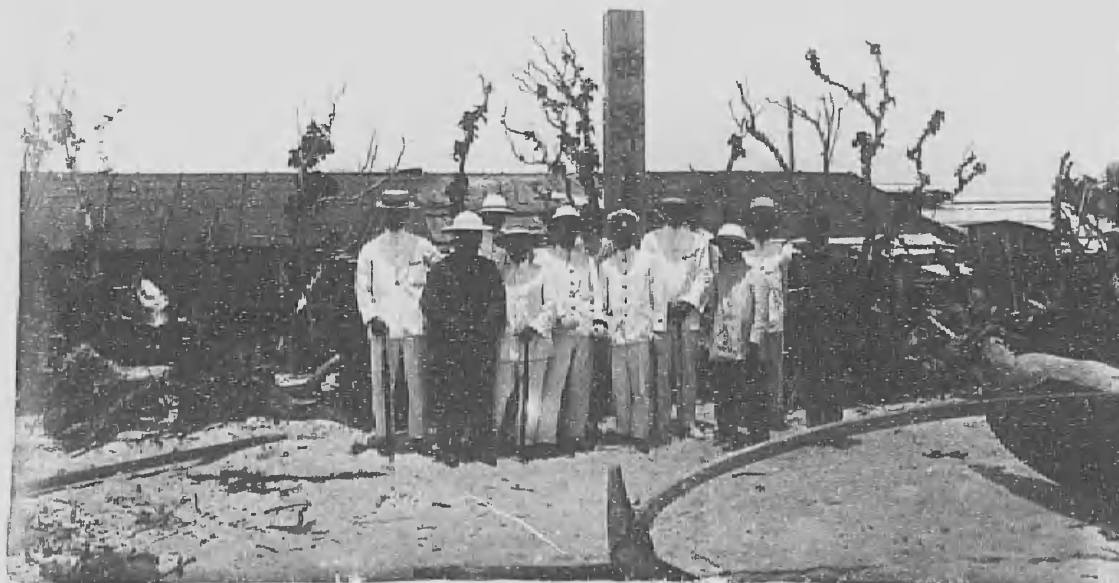
0655

廿



宿舎及工場

0657



0658

フナタニ島、西澤の島、
上陸地長（島）北東方より南に
方面

0659

軍令部

文書局

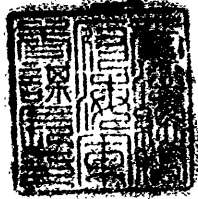
覽

臺灣第九七號

明治四十一年八月十九日

臺灣總督府海軍參謀長土山登

海軍大臣男爵齋藤實殿



一總督府技師福留喜之助プラタス島視察報告

二西澤島略図

三汽船不動丸碇泊位置図

右達ス



小林

山

南

野

鉄

海

軍

0660

不臘達斯島視察報告文

總督府技師 福島善助

位置及廣袤

不臘達斯島、支那海中、一孤島ニシテ日本水路部刊
行ノ海圖ニ依ル東端實測地点ニ於テ北緯二十度四
十二分三秒東經百十六度四十三分十四秒ニ位シ打撈
ヲ距ルポト南六十度西二百三十哩又香港ヨリ東南百
六十哩汕頭ヨリ正南百六十哩ニアリテ廣袤大約東
西二十七町南北七町周圍約二里ニシテ總面積約四百七
十三町歩ヲ有スレ民西部ニ於ケル鹹湖ノ面積ヲ把握
スレバ陸地約百三十町歩内外ニ過キス

沿革

本島ノ開發ハ基隆港西澤吉流ノ經營スル所ニシテ初
メ同氏ノ所屬船頭吉田某團平船ニ乗シテ神戸ヲ
發シ與那國島ヲ經テ臺灣ニ航スニ際シ途上颶風
ニ會シテ福州ノ海岸ニ漂着シ之ヨリ更ラニ臺灣ニ向テ
航行ノ途次一孤島ヲ洋中ニ認メテ之ニ寄航シ船足補
足ノ爲メ土塊ヲ積ミテ基隆ニ来着シタルニ遊艦ス
是レ實ニ明治三十五年十一月二十五日ナリ當時西澤ハ該
土塊ノ燐礦ナルヲ確メ之ヲ探檢ヲ試ミント欲セシモ船
頭カ海圖上ニ其位置ヲ指示ス能ハザリシ爲メ之ヲ
果サザリシカニ爾來數次ノ研究ニ依リテ不臘達斯島
ナルコトヲ明ニスルヲ得テ四十年八月十二日自ラ多數ノ行
ヲ率ヒ本島ニ渡航シテ檀々ノ調査ヲ施行シ燐礦採掘
海產物採取島嶼捕獲ノ有望ナルヲ認メ本年三月以

0662

東資ヲ投シテ業ヲ起シ爾來熱心ニ之カ發展ニ盡瘁
シテ今日至リ諸般ノ設備略其終ニ就カレトスル現況ナリ

交通

本島ハ絶海ノ孤島ニシテ其所當モ市ヲ確是セザルヲ以
交通ハ只本島經營者ノ特派ノ屬スル汽船ニ依リテ行
ハルノミ其航海月當回數ハ現人チ毎月二回ニシテ
神戸ヲ基點トシ基隆、安平、打狗ヲ經由シテ本島
ニ往復スルモノトス

地形

本島ハ東西ニ長ク南北ニ短ク蟹鉸状ヲ爲シ繞ラヌ
砂丘ヲ以テシ西部ニ大鰯湖アリ湖ハ湾入殆ント島ノ
中央ニ達シ特ニ其東北部ニ深ク陸地ニ進入シ
砂丘ヲ以テ僅ニ内灣ト隔テ金島面積ノ約四分一

0663

リとメ其ノ西北事端ニ於テ海ニ通ス湖底ハ概シテ決リ
 最深ノ処ニ於テモ約六尺ニ過キス砂丘ハ東部ニ高
 ク漸次西方ニ低下シ湖口ニ至クハ東端ノ砂
 丘ニ至リ本島ノ最高点（高ク約三十尺海國ニハ島ノ高ク）
 より東部砂丘ト鹹湖トノ間ニハ平地アリ面積五本
 町歩即チ金面積ノ三分一強ヲ占メ樹木密集
 鹹湖ノ南北兩側ハ半島状ヲナシ其内面ニ矮小
 ナ草木繁茂シテ島鳥之ニ群棲セリ海岸
 ハ總テ珊瑚介殻及其碎砂ヨリ成レル礁々
 砂濱ニシテ出入少ク徐隆起ニテ砂岳ニ接境シ
 島上ノ翠色ト相映シテ所謂白砂青松ノ觀アリ地
 形上島内ノ三区域ニ分チ南半島ヲ北島濱南
 島濱ト稱シ東部ヲ元濱ト呼ヘリ

本島ハ環状珊瑚嶼（あとり）東端ノ一部ヲ基礎ト
 シテ成立シタルモノニシテ四周海底ハ醜々タル珊瑚介
 殼、及其碎砂ヲ以テ蔽ハレ暗礁所ニ點在ス此環状嶼ハ
 平常本島ノ南微東六哩半ノ海上ニ其一部ヲ露出スル
 過キスト常モ低潮ニ當リテハ之ヨリ本島ノ東方九哩ノ地ニ
 經テ東北四哩半ノ地点ニ達シ延長三十六哩ニ至リテ馬
 蹄形ノ尖閣式礁脈ヲ露出ス其幅最も廣キ処ニ於
 テ百二十尺許ナリト海圖ニ其西南端ヲ南西南中央
 シ東南、西北端ヲ北西南ト称シ更ニ本島ト南西南
 ノ中間ヲ南水道、北西南トノ中間ヲ北水道ト呼ビ礁
 脈ノ内部ヲ内灣ト命名セリ此兩水道ハ海底ニ夥多ノ
 暗礁ヲ排列シテ本島ト北西南兩礁角トヲ連続ス
 ル環状礁脈ノ連鎖ヲ構成シ水深僅ニ半尋乃至四尋

過キス内灣モ亦暗礁多ク水深僅四尋乃至十尋
ナルニ拘ラス礁脈ノ外周ハ狀然二十尋乃至八十尋ノ深
海ヲナレテ珊瑚礁脈ノ特性ヲ現示セリ
此礁脈ハ航海者ノ最モ恐ルヘク處ニシテ海圖ニ此礁脈
ハ麻尼刺、香港間航路ニ當ルヘキ重大ノ險所ニシテ北東
信風時中ニ強風濃雲往々倂ニ數回ニ瀕ルコトア
リ以テ特ニ危險トス而シテ該信風時中ハ一艘ノ船隻
南東ヨリ該礁脈ニ近リカ故ニ該船ニ於テ破船ト罹ル
モノ數ナカラサリキレト註記セリ現ニ英艦ハイロ
ト辨及汽船一隻ハ南西附近ニ於テ沈没ノ厄ニ遭
シ共ニ船体今尚現存セリ
内灣ノ環狀礁脈ハ天然物ニ之ヲ防護堤ヲ構成スル
以テ常ニ風波靜穩ニシテ船舶ノ碇繋ニ便ナリト

虫も西水道ノ水深ト暗礁ハ大船ノ出入ヲ許サズ從テ小
 蒸汽船、團平船ノ避難、漁舟ノ碇、錨、悉ク去ルルノミ只
 西面ハ直ニ大海ニ連リ風波稍穏ナラスト只モ本島ヲ
 距ルコト半哩乃至二哩。シテ礁脈全ク尽キ突如トシテ
 二十尋以上ノ水深ヲ保ツヲ以テ常ニ本島ニ往復スル法
 船ノ碇船スル所ナリ
 不臘達斯島及馬蹄形大礁脈ハ印度洋中ノ「きーり
 んぐ」島ニ酷似ス「きーりんぐ」島モ亦一環状珊瑚礁
 「シテ」きーりんぐ「本島ハ不臘達斯大礁脈ノ隆起シ
 タルモノニ相若シ「きーりんぐ」灣頭ノ一小嶺ハ即チ不臘
 達斯島。當リ「きーりんぐ」灣ハ内灣ト一致ス只其ノ
 果チニ是レ「きーりんぐ」島ニ在テハ礁脈カ兒全ナキ
 ラ構成シ内部ハ鹹湖ヲ有スルト小嶺カ全ク海ト

四

0667

絶縁せん鹹湖ヲ有スルニアリト云モ本島附近海底隆起ノ場合ヲ想像セハ此異点モ亦相合致スル至ンベシ

氣象

昨年八月以来ノ経験後スレバ氣温ハ室内ニ於テ平均七十一度乃至九十度内外ニシテ晝夜氣温ハ五十六度ナリト本年一月以来ノ氣温表ヲ掲ケテ今考ヘ供セン

	最高	最低	平均
一月	七九	七〇	七六
二月	七七	六五	七二
三月	八六	六六	七六
四月	九一	七八	八四
五月	九六	八二	八七

0668

六月

九二

七八

八八

風ハ冬季東北ノ強風アリテ夏季ハ東南
 ノ軟風絶ヘス雨ハ実ニ本島ニ對スル天恵ニ
 テ夏期中ハ連日十数カ乃至数十分間ノ驟雨
 リ降ラシ五月ト十月下旬ヨリ十一月初旬ニ至
 リテハ一週以上ノ強雨連続ス潮流ハ午前中南
 方ヨリ内灣ニ向テ暖潮ノ急流アレバ午後三時
 頃ヨリハ内灣ヨリ外海ニ向テ温潮ノ急流ヲ生
 ス而シテ沿岸満チノ差ハ五尺六寸ナリ

地質

本島ハ地形ノ項ニ述ベタル如ク東方ノ馬蹄形大
 礁脈ト環狀聯セリ環狀珊瑚礁ノ一部ヲ基礎ト
 シテ堆積セシ珊瑚及介殼ノ破片及其碎砂依

リテ構成せし其地質極メテ單純ニシテ一ノ岩
磐ヲ有セス只僅ニ鳥糞礦及矽質石灰
白色ノ浮石ト黑色ノ熔岩ノ小塊ヲ混スルニ
是等ノ浮石及熔岩ハ澎湖烈島ノ海濱ニ見
ルモノト同質ニシテ南洋方面ヨリノ漂着物
タリヲ以テ其量ノ如キモ極メテ少ナシ鳥糞礦
ニ就テハ礦物ノ項ニ別ニ之ヲ詳記セシ
本島ノ構成ニ就テ案ズルニ往時此地ニ一孤島アリ
珊瑚環其四周水深三十合寸以内ノ海底ヲ基礎
トシテ礁脈ヲ造リシカ海底漸次沈降シテ終ニ島影
ヲ没センニ及シ珊瑚環ニ其特性ニ從ヒ常ニ二十合寸
以内ノ水深ヲ保チテ漸次上方及外海ニ而テ露出
シ當タトシテ礁脈ノ構成ヲ継続シ来リシガ

偶、海底隆起ノ機運、會シテ漸次水面ニ近ツキ終
 其最モ發育セシ部今ハ點々礁頭ヲ海上ニ露ハ
 スニ至リ馬蹄形大礁脈及本島ノ基礎礁脈ノ
 如キ即チ是ナリ此間永久無限ニシテ不休ナル波
 ノ二營力ハ珊瑚及介族ノ羸弱ナルモノ若ハ其遺
 骸等ヲ破壊シ粉砕シ運搬シテ海底ニ散布シ本
 島ノ四周海底ニ蒼白色ヲ映スルモノ是ナリ更ニ海
 波ノ離滯振致セラレタリ屑砂ハ本島基礎礁脈ノ
 上部ト空隙トヲ被覆填充シ終ニ一小島形ヲ為ス
 ニ至リ屑砂ハ堆積ハ益々其度ヲ加ヘ風力ハ更ニ之ヲ
 内部ニ運搬シ或ハ海濱ニ砂止ヲ造レン等永年
 至レニ二營力ハ終ニ現今不甌達新島ヲ構成セン
 モノトス只斷湖ハ其基礎タル礁外ノ位置ニ發育

トが前者、若カザリシが爲キ、陸地、変スルに至ラサルモ
ノ、如シ
風波ノニ營力ハ、永久不断ニ故、今尚絶ヘス破壊
ト建造ヲ継続シ、日夜海濱、屑破ヲ集積スルノミ
ナラズ、漸次岬南ヲ延長シテ湖口ヲ、壅塞セシトスル
モノ、如ク海圖ニ依レバ、其實測ノ當時、在リテハ湖
口ハ、其幅約〇・二哩ニシテ、西方ニ向テ開放セラル
ルモノ、今ヤ南岬著シク北方ニ突出シテ、全ク北岬ヲ
抱圍シタル爲、北方ニ湾曲シテ、西北ニ向テ開口シ、僅
ニ約半間ノ水路ヲ以テ海ニ通スル、至リ又本島ノ東
南角ニ在テハ、一小湾ヲ構成シ、將來益包容ラ大ニ
シテ一鹹湖ヲ構成セントスルノ趨勢ヲ示セリ

礦物

本島ハ総テ珊瑚介殼ノ屑砂ニ依リテ構成セラレシ
 無機質礫砂ナリ有セスト然モ古来島上ニ古樹等
 群ノ排泄物カ分解シテ雨水ニ溶解セラレ池中ニ沈
 透シテ屑砂ノ石灰分ト化合シテ成生セル島礫砂
 即チ有機質礫砂ヲ産出ス
 礫砂・塊砂ノ二種アリ其品質ノ豊富ナルモノ主テ赤
 ・褐色ヲ帯ヒ貧乏ナルモノ僅・屑砂ノ外皮ヲ礫化
 セ若ハ其表面ニ黃色ヲ附着セシメタルニ過キス而シテ
 砂礫ハ往々米々礫化セザル若クハ僅々礫化セル砂粒
 ト混レテ砂状ヲナレ本島ノ表ニテ構成セルモノニシテ
 一見土壤ノ如ク地下ニ三寸ヨリ一尺五寸ト達シ入礫ト
 称スル東部ノ平地ハ平均厚サ一尺ノ礫層ヲ有セリ
 塊礫ハ礫砂ノ集結セルモノニシテ僅々稍大珊瑚塊

ヲ混スルコトアリト云モ概シテ砂礫、比スレハ品質
 佳良ニシテ砂礫中、點々混在シ若クハ其下層、
 ナミテ伏在スレバ連続セル礫層ヲナサス其ノ集結
 ハ脆弱ニシテ極メテ破碎シ易ク主トシテ元濱、
 産シテ鹹湖ノ西側即チ南北西島濱、在リテハ殆
 ト全ク之ヲ発見セス

礫 量

本島ノ礫礫ハ殆ント全島、散在スレバ採掘ノ價值
 リト認めんモノハ元濱地内面積拾五万貳千坪、限
 コレ厚サ平均一尺ノ礫層ヲ構成シ其ノ總礫量ハ約
 十八万噸、達ス之、約二割ノ歩減リ見積ムトキ実
 収礫量ハ實、拾四万貳千噸ニシテ内三分ノ一塊
 礫三合ノ二ハ砂礫ナリ所シテ年額モ萬噸ノ肥

肥料配合所、使用量ヲ年々増加シ、セハ約拾年
間、供給スルコトヲ得ベシ

燐礦平均品位

前記、礦層中十七種、標本、對スル臺灣總督
專賣局檢定課及内地各肥料会社並、農事試
験場、於テ分析試驗、結果、別紙分析表、
如ク全燐酸一八九乃至二九、六九八%、窒素素
分、二五四乃至、六七四%、モレテ燐鉀硫酸等
元素、溶解スル燐酸分、一、一〇〇乃至二、五六八%
ナリ然レ、是等、礦物、各其、數量ヲ異ニス、以
テ全燐量ノ平均品位ヲ定ムル、當リ尤記ノ
如ク礦物ノ分類シ、其、數量、平均品位ヲ定メ、然
ル後其、總平均ヲ求ムルコト最モ適切ナリト信ス

[illegible]

砂

礦

並	上	並
礦	礦	礦
第	第	第
三	二	三
号	号	号
乃	乃	乃
〇・五五	〇・五五	〇・五五
五	五	五
分	分	分
二	二	二

〇・三四七

〇・三七〇七

前記ノ總平均品位算出法ハ本島ノ燐礦ニ對シ最モ適切ノモノト信ストモ更ニ參考ノ爲メ礦物ヲ單ニ塊礦トシテ一砂礦五ノ一二ニ分類スルニ留メ專賣局檢査課ノ分析ニ依ルモノ(人)ト總テノ分析結果ヲ綜合シタルモノ(B)トニ就テ二樣ニ其平均ヲ求メハ左ノ如シ

(A)	塊	砂
礦	礦	礦
九	六	九
八	〇・五五	二
〇・五五	二	分
二	分	一
一	〇・八四	〇・四〇

(B)塊	砂
二〇・一〇	九・〇〇
五・八	〇・三
三・九	三・九
一・二	一・二
一・二	一・二
〇・三	〇・三

平均

一・三・三九
〇・三八

此平均品位は算出の結果より許記の結果と比較すれば
 (A)ハ燐酸分及窒素分共に少シク多ク(B)ハ之に反シ
 テ少シク少シテ示レテ(A)(B)ノ平均数ハ殆んど同一致ス
 是レ稍偶然ノ結果であるが如キモ亦以テ本島燐礦
 層ノ價值ヲ窺フニ足ラレカ故ニ總平均品位ヲ定ム
 コト尤ノ如シ

全燐酸

百分中

一・三・〇〇

拘模嶺半島尾根岩溶
 燐酸分全燐酸分

一・三・〇〇

空

業

全

〇・五七

燐礦採掘收支計算

燐礦、價格ハ内地肥料會社購入、普通相場ニ依
レハ燐酸分一噸一成八分六拾五錢窒素一噸一成八分七厘
九拾五錢ノ割合ナルヲ以テ打狗渡賣價ヲ此標準
依リ計算出スル時ハ本島ノ平均礦二噸ニ付燐酸分八
厘四拾五錢窒素分貳厘九拾四錢計拾壹厘四錢九錢
ニシテ採掘費及打狗水揚々道ノ運便諸費用一噸五
厘六拾七錢(拾壹厘四錢)ナリ依テ打狗港ニ於テ收支ノ計算
ヲ示スコト尤ノ如シ

一金百六拾壹萬七千六百七拾圓

燐礦統價格

一金八拾壹萬五千四百拾圓

燐礦總原價

差引金八拾壹萬貳千五百零拾圓

總利益

0679

前記ノ計算中ニハ資金償却及其ノ金利ノ見込マ
サル。依リ純益ハ是等ノ金額ヲ扣除シタルヘキ
ハ勿論ナリ高燐礦ノ原價ニ付キ其内譯ヲ示セバ尤
如シ

一金貳拾壹錢

燐礦拾壹圓原價

内譯

金四錢

採掘費

金貳錢

本船積込
船賃共々

金拾壹錢

本船運賃

金壹錢

保陳

金參錢

打狗水揚

植柳

南北両島濱・在テハ主ニシテ其内面・雜草繁茂ス

所々ニもんばの木等ノ矮樹点生スルニ過キサレモ元淺
 ハ樹木密植林ヲ爲シテ叢生シ下枝ノ芟除ヲ行フ
 ニアラサレバ一歩モ之ヲ踏入ヘカラス樹種ハ島葉廣
 (ゲッターだすべしもさ) (島葉廣ハ川上校師新林)ヲ主トシうどの木、もんばの木、赤玉
 の木、哀草とべり、椰子、島白木、西澤の木(川上校師)
 もーりんだ、等ニシテ樹幹ハ徑四五寸乃至一尺樹
 齡十三四年ノモノ最モ多シ然レモうどの木ニ周圍一
 丈八尺ニ達スルモノ二本アリ之ヲ本島ノ最大樹トス草
 類中ニハ草とべり、針麦、黒岩筵、セーすべりひ
 ゆノ一種、島錦草、牽牛花等ニシテ同行川
 上校師ノ調査ニ依レハ顕花植物三十六種内海産
 二種菌類三種、海藻二十一種計六十九種アリ海藻
 中ノきりんさい(麒麟菜但新称)ハ馬蹄形大

礁脈ノ南部・近リ約二哩ノ間・繁茂スルモノ・
 支那人之ヲ採取・從事シツ・アリ・開ク処・依レバ
 菓子ノ原料・供スルモノナリト云フ又樹木中赤五ノ
 木及も人ばノ木ハ其・有用植物・属シ前者ハ
 其根ガ染料・供セラレ後者ハ不滲透質ニシテ輕
 ク琉球諸島・於テ潜水用眼鏡ノ框・使用ス
 ルモノナリト云モ其量少ク主木タル島葉廣ハ其
 質堅キモ折レ易ク其ノ木ハ腐朽シ易キヲ以
 テ用材タルノ價值ナリ只島内ノ燃料・供セラレ
 且尚詳細・淺リテハ川上枝師ノ報告・譲テ茲
 類ス

鳥類

鳥類ハ其種類甚タ少シ其最モ多キハモウナリ

之、次、ワ、目、由、十、鳥、ト、ス、其、他、軍、艦、島、赤、鷺、白、
 路、鳥、等、ア、レ、此、之、ヲ、見、ル、ト、甚、タ、稀、ナ、リ、を、さ、鳥、ハ、突、
 島、葉、礫、ノ、原、島、ニ、レ、テ、現、今、南、北、兩、島、濱、群、
 棲、レ、其、數、ニ、三、萬、ニ、達、シ、容、易、ニ、手、擒、ス、ベ、シ、家、禽、
 ハ、鷄、數、羽、ヲ、飼、育、シ、ツ、ア、ン、モ、之、ヲ、放、飼、ス、レ、バ、直、脚、
 氣、ニ、犯、サ、ル、モ、如、ク、成、績、好、良、ナ、リ、ス、ト、云、フ、

獸類

獸類ハ鼠及ニ十日鼠ノ二種ア、ノミ、家、禽、ト、シ、テ、ハ、豚、數、
 頭、リ、飼、育、ス、成、績、ハ、鷄、ニ、及、シ、テ、頗、ル、良、好、ナ、リ、ト、
 云、フ、

昆虫類

昆虫類ハ、さ、そ、ノ、(蜆)と、か、ゲ、(蜥蜴)と、蝶、及、ウ、ツ、
 雀、等、ノ、蝶、類、アリ、鳥、獸、昆、虫、ノ、關、ス、ル、細、説、附、

行補地編托一報告：讓ん

海産物

本島四面環海、孤島にして且周囲、霧多、礁脈
ヲ有スルヲ以テ海産甚ダ多シ即チ貝類ニ高
瀬貝ヲ主トシ蝶貝、瑇瑁貝、螺貝、廣瀬貝、
夜光貝、まぐ、とみふし、にし、寶貝、其他類
數多ノ小貝類アリ然レニ高瀬貝ヲ除ケハ他ハ
孰レモ其量少ク且夜光貝ノ如キハ其形甚少
ナリ之レニ及レテ瑇瑁貝ハ其大ニシテ其人ノ殼ノ
ミニテモ一個十四貫九百目ノ重量ヲ有スルモノ
實見セリ魚族ニ鰹、鰯、飛魚、鰯、平鰯、穴鰯
(一名ハク)黒鰯、はぎ、天狗はぎ、馬がら、鰻、
鳥賊、章魚、きたあ、はりつぐ、海老等アリ就

中海を其長サ五六尺、達スルモノアリト云フ。龍
類モ亦数種アリテ玳瑁、クマノコ、取モ多ク形
体モ甚大ニシテ往々四十貫以上、達スルモノアリ
此他海草ニ就テハ植物ノ項ニ略述シタルカ如シ
尚本項ニ関スル詳説ニ因テ伊藤枝子ノ報告ニ譲ル
事業ノ現況及将来ノ計畫

着手以來日尚残ク予カモ事業ノ端ニ涉ルヲ以
テ諸事未タ半途ニシテ整備セスト云々現況
及将来ノ計畫就チ先聞セム處リ記述セスト
欲ス

燐礦、本島陸上ノ主要目的ハ燐礦ノ採掘ニ
テ水産業其他ハ副業トシテ漸次其歩武ヲ
進メントスルモノアリ然ルニ本業タル燐礦ハ近來

内地金融界ノ不況。因ル各肥料製造会社製
造中止ノ影響ヲ受ケテ茲ニ一頓挫ヲ來セルモ、如
聞ク所ニ依レバ今日迄内地ニ積出セル燐礦塊
礦六千四百一噸ニシテ未取引ヲ了セスト云フ現今
島内、於ケル貯藏高ハ概測ニ依レバ塊礦千噸
砂礦百噸許ナリカ今因ノ帰航船ニ販路壅
塞ノ爲見本用トシテ僅少ノ砂礦ヲ搭載セル、ミ

ナリキ

従来ノ採礦場ハ主トシテ元濱ノ西北部及湖江ニシテ
現ニ堀鑿ノ跡ヲ所々認ムル近來ニ輕便鐵道
幹線ノ北側ニ沿テ採堀シツ、アリ採堀ノ方法ハ
鉄又ニシよるヲ用ヒ砂地ニ尺許リ堀下クルニテ
故ニ採礦ノ業ハ極メテ容易ナルカ如キモ産地ハ

密林中、アリ以テ採掘ニ着手スルニ先テ樹林ヲ
 伐採シ株根ヲ断テ以テ表土ノ突堀ニ便セザルハ
 アラス是レノ難事ニ属ス現ニ親案中ニ専ラ此
 準備工事ニ従事シツ、アリ目撃セリ
 採掘セル礦物ハ之ヲ塊砂ノ二種ニ區別シ砂礫更
 ニ一分目ノ竹篩ヲ用ヒテ選礦シ以テ珊瑚、今ノ鉄
 其他根鬚ヲ排除ス
 採礦ハ夫一人一日ノ工程ハ詳細ニ材料ヲ得ルニ能
 ハサリシヲ以テ之ヲ算出スルヲ得ス蓋シ本島ノ勞
 働者使役方法ハ自給制度ニシテ旦風波荒々ハ
 漁夫ニ変シテ採掘吏トナリ又採礦事業ハ伐採
 業ト混同スルノミナラス百事業創ニシテ工程ニ對
 スル調査ノ如キハ亦々其緒ニ就カザルモノ、如シ

然レ民西澤ノ打算ニ依レハ燐礦一噸ノ原價ハ約
 一円内外、相當スト云フ
 水産業 高瀬貝、蝶貝、海草ノ採取玳瑁ノ捕
 獲ヲ目的トスルモ目下主トシテ高瀬貝ノ採集
 ニ從事シツ、アリ採集地ハ馬蹄形礁脈附近ニシ
 テ通常一日一艘ノ所得ハ三人乗五百個四人乗七
 個ニシテ價格ハ神戸渡百斤ニ付貝殻十円五枚
 錢乾燥貝肉二十円ニシテ其採集額ハ既ニ十四五
 萬斤(百斤ハ通常百五十個)ニ達シ今因ノ帰航ニモ百
 九十俵(百五十斤)ヲ積歸レリ採集時季ハ三月ヨリ
 十月迄ニシテ貝殻ハ神戸ニ於ケル東洋鋳製造
 所、賣却スト云フ蝶貝及玳瑁モ時々之ヲ
 採集スレバモ未タ營業的ノ着手ヲ開始セ

ルニアラズ蝶貝、百斤二十七円ナレ其数多ク入
ハ往々数十頭群ヲ為シテ浮泳スルヲ見ルコトアリ
玳瑁捕獲ノ時季ハ四月ヨリ十月迄ニテ價格ハ甲
一斤ニ付貳拾五円ナリ

藻業ハモタ開始セサレ民本年秋季ヨリ碇置漁業
法ニ依リテ魚族ノ捕獲ヲ行シ冬季海上ノ採集業
困難ナル場合ニ於テ魚肥ヲ製造セントシ現今
之ガ準備トシテ汽罐室、乾燥室等ノ建築

中ナリ

をさ鳥ハ雛鳥ノ成育シ親鳥飛南ノ時季ハ先
十六月ヨリ八月迄ノ間ニ行フモノニシテ本年ハ六月
十六日ヨリ捕獲ヲ開始セリ鳥肉ハ食用ニ通シ
甚美味ヲ有スレ民之カ利用ノ方迄未タ備ハラズ

以上現今、只羽毛ノミヲ採集ス、將來肥料製
 造ノ設備ヲ完成スヘシテハ、鳥肉モ之ノ原料
 ニ入ルルノ計畫ナリト云フ。羽毛ノ之ヲ七種ニ分類
 ス。價格ハ、百斤ニ付、綿毛ノ五十五圓、シロ最高トシ、
 逐次递减シテ十八圓。降り西翅ハ、五十六圓ナリ
 而シテ親鳥一羽ノ羽毛ハ、十五錢ニ値シ、綿毛ハ
 千五百羽ヨリ百斤ヲ得、乾燥鳥肉ハ、窒素率性分
 百令中十ヲ含有スト云フ。

設備

運輸機ノ開設トシテハ、桟橋及輕便鐵道アリ、又桟
 橋事務所、間々、電話線ヲ架設シテ通信便
 々、桟橋ハ、元濱ノ南部海濱ニ築造セラレ、長
 十二間、幅二間、半輕便鐵道ハ、桟橋ヨリ元

0690

濱ノ中央ヲ横断シテ北走シ北端ノ倉庫ニ達スル
 モリヲ幹線トシ延長五町余複線式ナリ支線之
 ヲリノ岐シテ各埠頭礦採掘場ニ達ス現今敷設線
 延長ハ約三哩ニ達スレモ捕鳥開始ノ爲其一部ヲ
 撤去シテ島濱ニ轉設スル筈ナリ
 汽船ト橋樑間ノ貨物運輸ノ連絡用トシテ圓平
 船九艘ト亞汽船一隻アリ後者ハ噸數九噸余
 トシテ鷹丸ト稱シ曳船ニ使用セラル
 漢船ハ日本漢船二隻、琉球式漢舟十隻、ヤヤ
 船十四艘、隻・ボート四隻アリ西洋形ボートハ番
 港ヨリノ漂着船ナリ
 宿舍其他建設物ハたゞ如シ
 所長宿舍
 長五間巾三間

第一号宿舎	長二十間中八間
第二号宿舎	二十間中八間
第三号宿舎	十八間中九間
炊事場	十間中九間
食堂	八間中九間
浴室	五間中九間
酒保	七間中九間
食料倉庫	五間中四間
横関庫	十一間中六間
倉庫	二十間中九間
旧倉庫	二間半中一間半
旧便宿舎	八間中三間
	十間中三間

0692

便所(常勝) 長約十間(一ノモノ貳棟)
 貝土き小屋 二間 二間 一間半
 十間 三間
 各客積約各一五坪
 天水槽(煉木瓦葺) 各客積約各一五坪
 旧宿舎 粗造陋隘ナレバ新宿舎ニ給テ規模宏
 荘ニテ屋根高ク船形亜鉛板葺トシ高ク空
 気抜リ備テ通風佳良ナリ
 茅一茅ニ二宿舎ハ其中央ヲ縦ニ板壁ヲ以テ二
 分シ各ハ室ノ中央ニ一條ノ土間ヲ通シ居室ハ其
 両側ニ設ケタル茅三号宿舎ハ中央ニ土間アリ其
 両側ヲ居室トシ独身者ハ給テ雜居セムニテ東ニ帶者

十七

0693

二各隔壁アル一室ヲ給シ又種族毎ニ宿舍ヲ分別シ
 食堂ハ土間ニテ數十脚ノ十人用食卓ヲ排列シ
 人ニ組トシテ一人ノ責任者ヲ定メ器物其他ノ取締
 仕ス浴室ニハ大浴槽三個アリ何レモ金部ハ
 くりーと造ミレテ別々大湯沸穴電ヲ設ク
 事務員宿舍トシテハ一ノ所長宿舍ノ新建造セ
 ラレタムノミニシテ他ハ酒保ノ一部及三号宿舍ノ一
 部ヲ割キ隔壁ヲ設ケテ之ヲ充用シ又一医院ハ旧
 宿舍中ニ設ケ事務所ハ酒保ノ一部ヲ以テ之ニ
 充テタリ
 目下工事中ニ属スモノハ水槽ノ築造及乾燥室ノ基
 礎工事ニシテ前者ハ長サ八間中五間高十五尺ノ煉瓦
 積トシ既ニ其大半ヲ積ミタリ後者ハ長サ十間中五間

ノ設計・シテホタ敷地均シラセリ。過キス尚近キ将来
ニ於テ逐次増設ノ計畫アルモノハ、用水鉄管ノ敷設
、醫院、及第四号宿舍ヲ新築ナリト云フ
此他本島ハ絶海孤島ナリ以テ海賊等ノ襲来ニ備
フル爲小銃、火藥、若干ヲ貯藏セリ

飲料水

島内、方丈尺許、ノ井五個アリ深サ七八尺最深者十
三尺ナリ元来本島ノ地質ハ滲透質ナリ以テ井水概
シテ海水満干ノ影響ヲ受ケテ鹹味強ク且淡褐
色ヲ帶フ只元濱ノ中央部、掘鑿シタル最
深ノ井戸ハ海面ト稍遠サカルカ故ニ比較的ニ満干
ノ影響少ク水色鹹味共ニ稍薄シト云々
飲料ニ適セス只浴用及洗滌用ニ供スルニ適

キス

孤島素より溪川に有セス井水亦飲料・通セリ
ルモ氣象ノ項・述ヘタルが如ク四時降雨アリ特
夏冬季ニ在テハ連日少時間ノ驟雨ヲ降スヲ以テ
天水槽ヲ裝置シテ之ヲ集メ以テ飲料・供ス現
今水槽ハ大量ヲ満ス・是ヲサルヲ以テ新・大槽
ノ築造中ナルコトハ既・述ヘタルが如シ此設計ニ依レ
ハ天水ハ総テ唧筒ヲ以テ之ヲ高所ニ設ケタル天
水槽・集メ鉄管ヲ以テ之ヲ所要ノ處ニ放水スル
コト普通水道ノ如クセルトスルモノナリ

燃料

元濃・密生セシ約十五万坪ノ森林ハ現在消費
高ク一月一万八千斤ヲ標準トスルバ裕ニ七年供給

0696

ヲ充ス足ル但シ汽鐘用トシテハ基隆粉炭ヲ使用
スル見込ナリトモフ

就業時間

勞働者ノ起ル就業ノ時間ハ殆ント軍隊的ニ規律
正シク勵行セラル規定ノ時刻ハ蟬貝ヲ鳴ラシテ
之ヲ報ス即チ午前四時ニ起床シ四時二十分朝食ヲ
喫シ五時ヨリ就業午後六時二十五分終業スルモ
ノニシテ此間七時ヨリ十五分間九時ヨリ三十分間十
時半ヨリ午後三時迄四時三十分ヨリ十分間ノ休憩
アハリ以テ勞働時間ハ九時間ナリ昼休リ三時間
半ノ長キニ定メタルハ然カ働者ノ衛生ヲ顧慮セ
ルニ依レリ但シ以上陸上勞働者ニ對スル規定ニ
シテ漁業ニ従事スルモノニ對シテハ就業時間内

細別表ヨリ之ヲ通用スル限リ・アラズ所ニテ
就禱ハ一般ニ午後九時ト規定セラル

賃金並ニ給與

勞働賃金ハ日給三十五錢乃至七十錢(通稱)婦人

ハ貳拾錢乃至叁拾錢児童ハ臨時使用各々由ル

ヲ給シ且一般ニ食料及宿舎ヲ給ス此他内地人

ニ別ニ月給十円ヲ給ス但シ海産物採取ニ従事

シタル場合ハ於テハ日給ヲ給セズ其採取高

ニ應シ高額貝一個ニ付五厘乃至七厘玳瑁ハ口實

ノ高下ニ依リ一頭ニ付五拾錢乃至五円ヲ給ス(離島ノ

タルモノハ規定ノルモノニシテ市價ノ約半分ノヲ標準

トスルノ定メナリ又大工・左官・鍛冶工ハ八丈島澳吏ノ

賃職スル処ニシテ是等ノ特種ノ業務ニ従事セ

見場合、於テハ普通日給ノ外ニ十二銭五厘ノ割
 増テ支給セリ疾病ニ對シテハ三等癩症ニ至テハ
 トシテ一日六角ヲ徴収スルモ其他ノ事情ノ如何ニ依
 ス總テ診察料及医薬料ヲ免除ス日常中雜
 費ニ購買組合組織ニ準シテ總テ席價リ以テ
 低廉ニ購入セシムルノ便セリ設ケタリ

貸金支拂方法

貸金ハ毎十日ニ支拂フヘキ規定ニシテ本年一月以來
 ハ西澤銀行ノ金券ヲ用テ該金券ハ西澤島通
 用引換券ト称シ十圓・五圓・一圓・拾銭・一銭ノ五種
 アリ体裁ハ日本銀行兌換券ニ準シテ調製セシ
 モリモシテ表面中央ニ西澤島ヲ圖示シ上段ニ
 金額ヲ又下段ニ中央ニ本券ノ偽造變造ニ係

平

ルモノ。對シテハ支拂、義務ヲ有セザルモノトス。其右
 本券ハ依リ、西澤島内各販賣店ニ於テ、
 物品ト引換購入スルコトヲ得ヘモノナリ。左ニ表
 面ノ金額ハ正ニ相預リ本券ヲ引換、基隆西澤
 商店ニテ現金相渡可申候也。等ノ記事ヲ掲
 テ其金額、應シテ大小及刷色ヲ異ニセリ。六月
 中旬迄ノ流通高ハ約貳千七百円ニ達セリト云フ
 貯金

本島労働者、對シテハ總テ強制貯金ヲ行ハシム
 其額ハ所得ノ二割ニシテ郵便貯金ト同一利
 子ヲ付セリ

酒保

本島物品販賣部ハ酒保ト稱シ、日常必要品

ヲ販賣ス其資金ハ午内ニシテ西澤ニテ無利
自ヨリ貸付ニ以テ物品購入ノ資ニ充テ原價ヲ以
テ販賣セシム此等價ハ購入ノ原價・運搬中ノ取
手・損害ノミヲ附加シタリモコレヲ次船運賃及手
敷料其他附帯ノ費用ヲ含マサルヲ以テ購入者ノ
受タレ所ノ利益甚大ナル一種ノ購買組合ニシテ
不時ノ妻・傭ノミヲ爲シ常ニ在住人員・料スル向
フニケ月分ヲ貯蔵シ午前十時ヨリ午後八時迄
ノ間ニ販賣ス

投資格

投資額ハ六月市ノ入港不動丸便迄・約三十五萬圓
ニシテ同月下旬入港スハキ熊本丸便迄ヲ綜合スルバ

約二十七萬餘人。遺ストアリ

在島人員

本島ハ素ヨリ無人ノ孤島ナリシモ西澤 事業開始以來多數ノ住民ヲ見シ至レリ即チ六月十六日現在人員ハ四百廿拾四人ニテ内地人二百廿拾人臺灣人及福建人廿四人ナリ尚之ヲ細別スレバ内地人中ニ事務員十人、介折獄人ニ連師ニ名婦人ニ十五人、小兒十七人アリ臺灣及福建人ハ総テ妻子ヲ携フ節セズ而シテ内地人勞働者ハ八丈島、小笠原、石神等ノ住民ニシテ臺灣人ハ主トシテ澎湖、基隆、桃園三縣民ナリ其平均年齡五十三歳、一老人ヲ除ケルニ三七歳ニシテ熟シモ血氣旺盛ノ青年ナリ現下島内ハ金ヲ無慾ニ棄ルコトヲ加フルニ異種族者

年ノ集合ニハハラス各種族間ノ意氣能ク融和シテ
 希々紛擾ヲ惹起シタルトモトモ是誠ノ慶スベシ
 而シテ彼等勞働者ハ近來自ラ進シテ其ノ
 近親故旧ヲ招致シ若ハ自費ヲ投シテ同伴スル者
 甚々多ク特ニ不日福達人ノ派来スル者二百名許アリ
 リト云ヘリ從テ勞働者莫ク集ニ関シテハ何等ノ費
 用ヲ要セス拱手シテ其目的ヲ達ストモ斯ル者數
 者中ニ不逞ノ徒ノ混入スヘキヲ免レズシテ異種族
 間ノ勢力相拮抗スルニ至ラハ或ハ不逞ノ徒ナリ
 保スベカラザルリ以テ今ニ於テ宜シク之ヲ備フヘ
 策ヲかんヘカラスナラシム

勞働者ノ種別及教育ノ程度
 勞働者ノ種類ハ農夫、漁夫、水手、大工、石工、鍛冶

及老力ナリ若力ニ總テ臺灣人及福民人ニシテ
 軍ヲ燐礦採掘及雜役ニ使用セラル内地人ニ其
 他ノ職ニ從事ス然レバ漢吏ノ風波荒々ニテ漢
 業ノ行ハレザン場合ハ燐礦採掘ニ從事スルコト
 リテ内地人中人及島民ハ過半高業ヲ學校程
 度ノ教育ヲ終ヘ居ンテ沖繩人ハ稀ニ書信認メ得
 ルモアムニ臺灣及福民人モ亦然リトス

衛生

衛生状態ハ比較的良好ニシテ熱帶地ノ特病ハ
 「マリヤ」ヤシノ如クハ絶無ニ屬ス蓋シ四季を通じて
 テ蚊族ノ擾害セザン依ルナラシカ然レトモ本島
 ニ於ケル一種ノ奇病（？）ハ渡航後三週間許間
 ハ著シク食慾ヲ激進スルコトニシテ殆ント平常ノ倍量

食スル。至ル此暴食ノ結果。下痢症ヲ弄ス然レ
 ニ其平癒モ亦速カニシテ金快後ハ良徳平癒
 復シ未タ瘳テ之カ爲生命ヲ失セシモノナレ
 本島ノ給食良ニ米飯ナリ以テ労働者中候
 人々澎湖島民ノ如キハ之ヲ珍ラシトシ果食ノ
 弊。陷ルモノ如ク想像セラルモ内地人就中事
 務員ノ如キモ斯症。犯サレサルヲ殆ント稀ナリト
 ム此他稀。脚氣又ハ寒ノ肩。犯サルモノアルノ外
 特記スベキ病症ナク事業開始以來本島於
 テ死者ハ五人ニシテ内一人ハ行ノ滯島中老病ヲ
 以テ死セシモノナリ

医師二人アリ一ハ臺灣公使ノ職。従事シタルモノ
 テ他ハ其助手トス現今医院ノ構造ハ甚ダ粗陋

ナリ、魚天医院新設ノ計劃、又コト設備ノ項、
述ヘタルカ如シ

結論

本島ノ主要産物ハ海産物、島天、及燐礦ノ三種ニシ
テ就中燐礦ヲ以テ重要産物トス蓋シトシテ二者ハ燐
礦採掘ノ副業トシテハ甚々利益ナリト雖單獨ニ本
島ノ経営ヲ支持スル程度ニ量饒ナリト認ムコト
能ハルヲ以テ本島ノ經營ノ成敗ハ實ハ燐礦ノ價値
如何ニ存ス於此ハ中宮尾殖産局長閣下ノ命
依リ長崎、堀内、佐山、三枝師ト不職達斯島燐
礦調査會ヲ組織シ中宮之カ主任トシテ其利用
及収支ノ関シ査査審議ヲ逐ケ燐礦調査會
報告ヲ編述セリ茲、別冊ヲ提供シテ結論ニ代フ

本月ヨリ以テヲラス島嶼礦業調査ノ
 命セラル候。就即ヨ會合福留技師ヲ主任トシ同
 技師ハ鑛業ニ関スル方面及英文編纂ヲ片山技師
 ハ分析ニ関スル方面ヲ堀内技師ハ肥料製造ニ関
 スル方面ヲ長崎技師ハ農業ニ関スル方面ヲ各々担
 仕シテ會同調査ニ當リテ數回査察審議ノ結果ハ
 別紙報文ノ通譯ヲ及復命候也

明治四十一年七月二十二日

技師

片山徹吉

全

堀内政一

全

長崎常

主任技師

福留喜之助

二十日

0707

殖産局長宮尾舜治殿

0708